

省エネ住宅のあり方とは

何よりも健康的に暮らせ光熱費が節約でき、最低限の機械設備費で済む住宅づくりだと私は考えます。いくら省エネでも不健康では全く意味がありません。又、過剰に設備費をかけ過ぎるのも費用対効果から考えると決して省エネ住宅と言えないと思います。

これまでの日本伝統的な家づくりは夏の快適さを重視して造られており、冬は底冷えし、寒く、とても暮らしやすい住宅とは言えませんでした。又、部屋全体を暖めるといった暖房という概念がなく、こたつや火鉢など局所で体を温める採暖といった考えでした。

しかし、ガストーブ、石油ストーブ、エアコンの普及とともに、暖房が定着してきました。現在はエネルギー問題の深刻化で住宅の省エネ化が進んでいます。

住宅づくりの基本的考え方は、建物を高気密高断熱化し、冷暖房に必要なエネルギー消費を減らすことです。又、24時間換気計画が非常に重要になってきます。

高気密高断熱な住宅は光熱費が節約でき室内温度を一定に保ちやすい。

各部屋の急激な温度変化で心臓発作、脳卒中を起こすヒートショックを防ぐためにも高気密高断熱住宅は欠かせない。又、結露が起きにくくなるのでダニやカビの繁殖を抑えられます。

住宅の断熱性を高める上で重要なことは、屋根や外壁の断熱だけでなく窓廻りの断熱が最も重要です。ペアガラスや断熱サッシの普及が進みましたが、それだけでは断熱不足です。窓を極力少なく計画するのは有効な方法ではありますが、明るさや、開放感は無くしたくない。そのような場合は窓の内側にもう1つ窓をつけるのが有効。既に各サッシメーカーからインナーサッシは販売されているが高額である。又、外付けブラインドは大変効果的です。それ以外でお金をあまりかけず且つ、開放感を損なわず、創意工夫しだいで有効な方法はいくつかあります。

部屋の温度だけでなく、床、壁、天井からの輻射熱が重要です。室温が高くても直接触れる床や窓、壁などが冷えていると快適さは感じられなくなります。

そこで、遮熱断熱効果のある塗料や自然素材を使うのも効果的です。

全く機械に頼らなく快適空間をつくるのは難しいですが、建物の造り方次第でエアコンの利用率を一般の30%以下にするのは十分可能です。